

# 都市再生整備計画

ひらかたしえきしゅうへんちく だい かいへんこう  
枚方市駅周辺地区(第5回変更)

大阪府 枚方市

令和3年2月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

## 目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	大阪府	市町村名	枚方市	地区名	枚方市駅周辺地区	面積	104 ha
計画期間	平成 27 年度 ~ 令和 2 年度	交付期間	平成 27 年度 ~ 令和 2 年度				

### 目標

地域資源を活かした拠点機能の強化による市の“玄関口”におけるまちの賑わい向上  
 目標1: 集客力の向上による賑わい創出 目標2: 回遊性の向上による賑わい創出

### 目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。  
 <都市全体の再構築方針>  
 本市は、大阪と京都の中間に位置しており、西の淀川や東の生駒山系の里山など、自然豊かな環境を有し、古くには京街道に枚方宿が設けられ人が集い、まちが栄えてきました。戦後、高度経済成長期には、住宅地が拡大し急速に人口が増加するとともに、産業や商業も大きく発展したことに伴う都市への需要に対応するため、都市基盤整備が進められ、現在の枚方のまちが形成されてきました。  
 一方で、昨今では、少子高齢化によるこれまで経験したことのない人口減少などにより都市の課題は大きく変化し、将来、人口減少や財政投資の制約が予測される状況のもと、持続的なまちの発展に向けて、市民の定住、市外からの転入促進を図ることが重要です。  
 そのため、まちの魅力の向上へ向け、これまで守り育まれてきた歴史・文化や豊かな自然などの地域資源や先人が積み上げてこられた都市のストックを有効活用しながら、子どもから高齢者まで多様な世代が、快適で安全に暮らすことのできる環境づくりや、駅の周辺などにおいて人が集まる都市拠点づくりを進めるとともに、人々の回遊性を高める交通網の整備を行うことで、更なる賑わいと魅力にあふれる枚方のまちを実現していく観点から、「枚方市都市計画マスタープラン(H29.3)」を改定し、“まち・ひと・自然がつながり、持続的に発展する都市”を目指すこととしています。  
 さらに、「枚方市立地適正化計画(H29.3)」をあわせて作成し、「枚方市都市計画マスタープラン」で示す将来都市像を踏まえ、“より便利な都市を実現させていくこと”、“公共交通ネットワークを充実させること”の二つの目標を設定し、自家用車に過度に依存しなくても利便性が高く住みやすい都市を実現していきます。  
 また、公共不動産についても、これまでも一部廃止や他用途への転用、未利用地の売却など行政コストの縮減や公共施設の活用促進に努めてきましたが、今後は、さらに公共施設全体を把握して施設総量の適正化を図っていく必要があることから、「枚方市公共施設マネジメント推進計画(平成29年3月)」を策定し、総合的かつ計画的な管理を推進していきます。  
 加えて、令和2年1月に枚方市駅周辺地域が「都市再生整備緊急整備地域」の指定を受けたことから、民間投資の促進による都市再生の質の向上や、商業・業務・医療・住居・学び・文化・交流・行政機能などの都市機能の更新・強化により、周辺市を含めた広域中心拠点を形成するとともに、歩行者が快適に回遊できる居心地の良い歩行空間を創出するため、ウォークアブルなまちづくりの取り組みを推進します。

### まちづくりの経緯及び現況

- 都市機能の状況  
 本地区は、本市を含む広域都市圏の中心的な機能を担っています。  
 古くは淀川舟運や旧京街道の宿場町という水陸の交通拠点として発展し、その後、高度経済成長期における大型商業施設の出店や市街地開発事業により、官公庁団地における市役所をはじめとした行政サービス施設や病院(特定機能病院)、商業、文化施設など基幹的な施設のほか、病院(産科など)、保育所(園)や幼稚園(認定こども園)など、多種多様な都市機能が立地しています。  
 しかしながら、近年は大規模商業施設の閉店などによる商業機能の不足をはじめ、昭和40年から50年代に実施された市街地再開発事業により立地した建築物の老朽化が進むなど、まちの賑わいが低下しています。
- 主要な公共交通の状況  
 本地区の中心となる京阪枚方市駅は、京阪本線の特急停車駅として、多くの人が利用する本市の重要な交通機能を担っています。駅前については、市内各所や隣接市などの多方面をつなぐ複数の路線におけるバスが発着する駅前広場が整備されていますが、鉄道駅へ向かう交通の集中や、駅前を通過する車両などによる駅前広場の混雑が発生しているとともに、安全で快適な歩行空間の確保が必要となっているなど、交通環境の改善が求められています。

### 課題

- 大規模商業施設の撤退などによる商業機能の不足をはじめ、昭和40年から50年代に実施された市街地再開発事業により立地した建築物の老朽化が進むなど、拠点機能の減退とともに賑わいが低下しています。
- 京阪枚方市駅へ向かう交通の集中や、前を通過する車両による駅前広場の混雑や地区内道路での慢性的な交通渋滞の発生など、交通環境の改善と安全で快適な歩行空間の確保が必要です。

### 将来ビジョン(中長期)

【第5次枚方市総合計画(H28.4)】  
 施策目標: 人々が集い賑わい、魅力あふれる中心市街地のあるまち  
 取り組みの方向

- 利便性が高く、魅力あふれる中心市街地の形成に向けて、商業、文化芸術、居住施設をはじめ、緑化等による景観など、交通結節点におけるさまざまな機能を充実できるよう、枚方市駅周辺の再整備を進めます。
- 枚方市駅周辺が、人々が集い交流し、さまざまな活動が活発に展開される拠点となるよう、各種イベントの開催など賑わいづくりを創出します。



計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【枚方市駅周辺における魅力あるまちづくり 目標1:集客力の向上による賑わい創出】 総合文化施設や施設前広場でのイベント開催、駅リニューアルや大学学部新設などの民間投資、地区内の歴史資源(宿場町)や自然資源(淀川)を活用した定期的な地域イベントの実施により、地区の集客力を向上し、賑わいを創出します。</p>	<p>【基幹事業】 高次都市施設(地域交流センター):総合文化施設 地域生活基盤施設:施設前広場整備事業 地域生活基盤施設:歩行者用デッキ整備事業 地域生活基盤施設:歩行者用エスカレータ整備事業</p> <p>【提案事業】 地域創造支援事業:枚方市駅周辺再整備基本計画</p> <p>【関連事業】 総合文化施設(大ホール) 京阪枚方市駅リニューアル 関西医科大学(学部新設) 街なみ環境整備事業(枚方宿地区) 枚方宿くらわんか五六市・淀川舟運事業 「観光施策に関する考え方」策定 滞在環境整備事業(まちなかウォークアブル推進事業)</p>
<p>【枚方市駅周辺における魅力あるまちづくり 目標2:回遊性の向上による賑わい創出】 地区内の道路整備とあわせた路線バスの運行ルート見直しにより、地区内の道路の渋滞解消に寄与するとともに、駅から集客コンテンツへとつながる安全・安心な歩行者動線を確保することで、地区の回遊性を向上し、賑わいを創出します。</p>	<p>【基幹事業】 道路:北側道路整備事業</p> <p>【関連事業】 (都)枚方藤阪線整備事業 外周道路整備事業 市道枚方市駅前線改良事業 京阪バス(株)交通体系の見直し 滞在環境整備事業(まちなかウォークアブル推進事業)</p>
<p>その他</p>	
<p>【連携体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■相乗的な賑わい向上 - 官民連携 -             <ul style="list-style-type: none"> <li>・街なみ環境整備事業:街なみの修景基準に沿った外観の修理・修景に係る一部経費等の助成</li> <li>・枚方宿くらわんか五六市:主催者(まちづくり協議会)へのイベント時の公共施設(市道等)活用支援</li> <li>・淀川舟運事業:五六市開催にあわせた民間主催による定期運航(H29.9～)</li> <li>・滞在環境整備事業(まちなかウォークアブル推進事業):UR都市機構による居心地の良い歩行空間の創出を目指した社会実験の実施検討</li> </ul> </li> <li>■総合的な取り組みによる賑わい向上 - 政策間連携 -             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「枚方市駅周辺再整備ビジョン」の策定(H25.3):駅周辺地域全体のエリアマネジメントを実施し、最適な土地利用検討を総合的に捉え庁内関係部署(総合政策部、市駅周辺等活性化推進部、産業文化部、都市整備部など)が横断的に連携し、賑わいのあるまちの構築を目指します</li> <li>・道路整備にあわせた交通体系見直し:道路整備や歩道改良にあわせて京阪バス(株)の運行ルート見直しを実施します</li> <li>・「観光施策に関する考え方」策定:観光地経営体(DMO)の確立に向けて、交流人口拡大や地域経済活性化の原動力となる観光施策の推進による賑わいの向上を目指します</li> <li>・「公的不動産(国、大阪府、枚方市)の最適利用推進連絡会議」の設置</li> </ul> </li> </ul> <p>【持続可能性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■自立化に向けた官民連携による賑わい向上 エリアマネジメントの推進             <ul style="list-style-type: none"> <li>・枚方市駅周辺活性化協議会:北大阪商工会議所を中心に、計画段階から官民連携によるエリアマネジメント推進に取り組むため、参加団体からの選抜メンバーによる「勉強会」をスタート</li> <li>・連鎖型まちづくり:総合文化施設へ機能移転する現市民会館用地や、駅周辺再整備にて創出される公的不動産の跡地を活用した連鎖型まちづくりによる賑わいを向上します</li> <li>・UR都市機構との包括連携協定(H28.11月締結):UR都市機構が持つ都市再生・官民連携の実績やノウハウの提供などまちづくり支援体制の構築</li> </ul> </li> <li>地域事業者等との連携             <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合文化施設:地域事業者等と連携し魅力的で多彩な事業を展開</li> <li>・淀川舟運:民間事業者による自立運営に移行し、さらに上流側(八幡・伏見)へ事業展開を検討</li> </ul> </li> <li>■観光地域づくりを担う人材育成による賑わい向上 観光地経営体(DMO)の確立に向けた観光戦略の一環として、枚方市に愛着を持つ人材を掘り起こし、五六市など地域イベントや総合文化施設での民間イベントなど集客コンテンツ間を継続的に連携する観光地域づくりを担う人材育成につなげることで賑わいを向上します</li> <li>■公共施設の一体管理による賑わい向上 指定管理者によって総合文化施設と周辺の公共施設を一体運営することで、民間事業者のノウハウを活用した効率的な管理による維持費の低減や賑わいの向上につなげます</li> </ul>	



枚方市駅周辺地区(大阪府枚方市)	面積	104(48) ha	区域	枚方市新町二丁目から東田宮一丁目
------------------	----	------------	----	------------------



